



「病院を家庭に、家庭で炎症コントロール」

南学 正臣 PM

(東京大学・教授)

研究プロジェクト概要

体臭などの「皮膚ガス」を用いて健康状態をモニタリングする技術を確認し、運動をした際などに得られる「健康に良い炎症」をもたらす技術（運動代替療法や運動模倣薬）の研究開発を行います。ウェアラブルセンサーと病院をつなげ在宅診断を可能とするなど、メディカルネットワークを構築することで、健康長寿社会実現を目指します。



どこでもアクセス可能な革新的遠隔医療の実現

2040年までに期待される ブレイクスルー

- ・ 在宅でも炎症マーカーなどを測れる超高感度スマートデジタルの機器を開発。
- ・ 皮膚ガスを測る非侵襲なセンサーの開発で、在宅での健康管理と疾患の超早期発見を可能に。
- ・ 神経を刺激して筋収縮を生じさせる運動代替療法や、運動模倣薬の開発により、すべての方が運動を享受できる社会を実現。
- ・ 医療機関と在宅でのセンサーデバイスをつなぐ、メディカルネットワークを実現。